

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：32651

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20804

研究課題名(和文) 複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護事業所連携モデル開発の挑戦的取り組み

研究課題名(英文) Development of a Liaison Model for Pediatric Patients Using Multiple Home-visit Nursing Service Facilities

研究代表者

志村 友理 (SHIMURA, Yuri)

東京慈恵会医科大学・医学部・講師

研究者番号：30513981

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護連携モデルを構築することである。訪問看護を利用する小児は複数の訪問看護事業所を利用していることが特徴として挙げられる。しかし、本研究の結果からも事業所間での連携はほとんどなく、小児の訪問看護の経験が少ない事業所にとっては不安を抱えながら関わっていた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い予定していた調査を中止せざるを得ない状況となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療的ケアを必要とする小児は増加の傾向をたどっており、在宅で家族とともに小児が生活できることが望まれる。そのためには小児の訪問看護を受け入れる事業所を増やし、医療的ケアを必要とする小児とその家族を支える仕組みづくりが喫緊の課題である。さらに病院と地域が一体となり、看護職が医療的ケアを必要とする小児とその家族を支えていく必要がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to construct a home-visit nursing cooperation model for children using multiple home-visit nursing establishments. A feature of children using home-visit nursing is that they use multiple home-visit nursing facilities. However, the results of this study revealed almost no cooperation between the establishments, and the establishments with little experience in home-visit nursing care for children were involved while having anxiety. In addition, due to the spread of the new coronavirus infection, the planned investigation had to be canceled.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：訪問看護 小児 子ども 医療的ケア 連携 母親 看護学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

小児等在宅医療の患者数は、成人と比べると極めて少ないが、多くの小児は複雑な医療的ケアを必要とし、家族の負担は計り知れない。医療保険における0~9歳の小児の訪問看護の利用者数の全体に占める割合は平成13年と比べ平成21年は3.48倍となっている(厚生労働省, 2011)。国は、平成25年に予算化し小児等在宅医療拠点事業として小児等の在宅医療の受け入れが可能な医療機関・訪問看護事業所数の拡大、専門機関との連携の構築を目的の1つに挙げている(厚生労働省, n.d.)。

複雑な医療的ケアを必要とする小児の家族は小児の訪問看護に対応できる事業所を増やしてほしいと希望している。現在小児の訪問看護を実施できる事業所は1507件中513件の事業所で全体の34%であると報告されており(社団法人全国訪問看護事業協会, 2010)、小児の訪問看護に行くことができる看護師は小児看護経験者または小児の訪問看護経験者の多くに限られている。また、小児の訪問看護を行う上で困難なこととして小児看護に関する知識不足、病状の判断が難しい、症例数が少ないため対応が難しいことなどがあげられている(社団法人全国訪問看護事業協会, 2010)。そのため、小児の訪問看護事業所数や訪問看護師を単純に増やしていくことは困難な状況にある。複数の訪問看護事業所を利用している割合は、15歳未満・精神疾患・末期がん・13日/月以上訪問している中で15歳未満が21.4%と最も多い(中医協, 2013)。これは単一の訪問看護事業所だけでは看護師の人数が不足しており、複数事業所で対応せざるを得ない状況とも考えられる。

小児は複数の訪問看護事業所の利用が最も多いことに着目し、訪問看護事業所間で連携をとりあうことで、在宅で療養する小児やその家族に対する支援体制強化につながると考える。訪問看護事業所の連携は、他の事業所の看護師と対象となる小児を通して看護を共有し、検討することにつながりより質の高い看護実践へとつながると考える。

これまで複数の訪問看護事業所の連携に関する報告は数件あるが、小児の訪問看護事業所における連携については未開発の分野である。そこで他の訪問看護事業所の看護師間の連携と訪問看護事業所間の連携を示す複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護事業所連携モデルを開発する。本研究における小児とは15歳未満を指し、小児の訪問看護は15歳未満の子どもに対する訪問看護を意味する。

### 2. 研究の目的

本研究は、小規模訪問看護事業所が連携しあうことで、より多くの小児に対する訪問看護を実施し、他の訪問看護事業所の看護師と訪問ケースを通して看護実践を共有し、検討することで質の高い看護実践へとつながる複数事業所を利用する小児の訪問看護事業所連携モデルを開発することである。

複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護事業所における連携の実態を全国調査から明らかにする。

全国調査の結果から、複数の事業所を利用する小児の訪問看護事業所における連携を促進する要因と阻害する要因、阻害する要因に対する解決策を検討する。阻害する要因に対する解決策については訪問看護師に対してインタビュー調査を行う。

の結果をもとに複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護事業所連携モデルを開発する。

### 3. 研究の方法

1) 国内、諸外国における訪問看護事業所の連携に関する文献や先行研究について収集・検討した。

2) 複数の訪問看護事業所を利用する小児の訪問看護を行う看護師に対して、対象とする小児を通じた連携の内容・方法など、その実態についてインタビューを行った。調査内容は、訪問看護師に対して、看護師経験年数、小児看護経験年数、訪問看護経験年数、小児の訪問看護経験年数、これまでの経験といった基礎情報、小児の訪問看護を行う訪問看護師の連携の実態についてインタビュー調査を行った。小児の母親に対して、小児の疾患や年齢、家族構成などの基礎情報、母親が捉えた訪問看護の連携の実態についてインタビュー調査を実施した。

### 4. 研究成果

小児に対して多くの訪問看護師が関わっており、母親は訪問看護師が来る度に子どもの状態を伝えなければならない状況にあった。一方で多くの看護師が関わることで子どもは人に慣れたと母親は捉えていた。訪問看護師同士の連携は訪問看護導入後、ケアの方法を共有するために一緒に訪問したことがあるがそれ以降は母親を通じて子どもの状態について情報共有をしていた。

母親は毎日誰かが来る安心感がある一方で関わる看護師全員に同じことを伝えなければならないことに負担感を抱えていた。いつもの状態と家族だけではわからない変化を母親と訪問看護師で共有することで受診のタイミングの見極めもしていた。日々の関わりとしてのサポート感を母親は得ている一方で毎日をつなぐ連携やヘルパーといった他職種との連携においても母親が中心となって調整している現状が母親にとっての負担感となっていた。訪問看護事業所間では連携を行うタイミングは退院時のみで、いったん訪問が開始されると日程調整以外での連

携はあまりなく、小児の訪問看護の経験が少ない事業所にとっては不安を抱きつつ関わっていた。ケース間で類似している情報が多かったため全国調査ではなくケースを重ね連携の在り方についてさらに考察を行っていく予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大に伴い調査を中止せざるを得ない状況となった。今後は小児の訪問看護の経験の少ない事業所でも不安が軽減し、より多くの事業所が在宅で生活する医療的ケアを必要とする小児の看護を担うことができるよう研究を重ねていく

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yuri Sugiyama
2. 発表標題 A case study on the status of cooperation between mothers of children with medical complexity and visiting nurses from several visiting nursing stations.
3. 学会等名 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference. (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----